

斑点米防止の為、出穂前までの畦畔草刈りの実施、
こまめな水管理と適正な穂肥の施用で良質米の生産を！

○休耕田・畦畔の草刈り実施の依頼について(県下一斉)

畦畔草刈デー: 7月3日(土)、7月4日(日)

カメムシ生息密度低減の為に協力をお願いします。
作業にあたりましては事故のないよう十分な注意をお願い申し上げます。

○休耕田・畦畔管理依頼看板の設置について

巡回設置日: 7月5日(月)～7月7日(水)

雑草対策が不十分な箇所に管理依頼看板を設置させていただきます。
(鯖江・今立地区)

○7月以降の水管理

収量・品質・食味ともに優れた米を生産するためには登熟を向上させる事が重要です。幼穂形成期以降、特にコシヒカリについては収穫間際まで間断通水を実施してください。

【水管理のポイント】

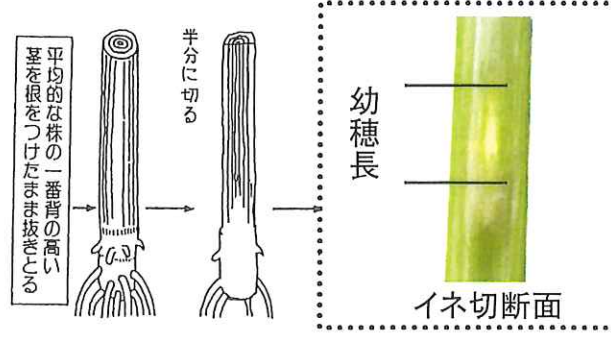
- ①穂ばらみ期から出穂期までは特に水を必要とするので湛水状態にする。
 - ②出穂期以降も間断通水を継続し、根の活力維持を図る。
なお、出穂期から成熟期までの登熟期間が高温(日平均気温27℃以上)で推移する場合は、未熟粒や胴割粒の発生を助長するので、間断通水の間隔を狭めるなど気象や圃場条件に応じた水管理を実施する。
 - ③台風の接近や通過が予想される場合は、事前に圃場への入水を実施し、フェーン現象による高温・乾燥で生じる被害の軽減を図る。(台風通過後は速やかに排水する)
 - ④通水は夕方から朝方とし、根の健全化につとめる。(日中は高温のため)
 - ⑤可能な限り、収穫間際まで間断通水を実施する。(早期落水厳禁)
- <異常気象対策>

稲は気温が30℃を超えると光合成速度が低下し、十分にデンプンを作ることができません。高温障害・日照不足の影響を受けると乳白米や不稔粒が発生したり、登熟歩合が低下することにより減収や品質低下を招く原因となります。

- ・稲の過繁茂防止につとめ、受光体勢や通気性を維持する。
- ・こまめな水管理で根の機能活力維持を図り、夜間通水で圃場内の夜温を下げる。
- ・登熟期に肥効が切れないよう穂肥を適正に施用する。

○穂肥(分施の場合)

【適期の判断】
穂肥の施用時期は、品種や生育状況によって圃場ごとに異なり、施用時期を大きく外してしまうと倒伏や減収の原因になりますので、必ず幼穂長を確認して適期を判断しましょう。



【穂肥の施用量】 「新エコ追肥」: 10a 当たり

品種	1株の茎数	葉色	穂肥1回目	穂肥2回目
ハナエチゼン あきさかり	-	-	幼穂長2mm 15kg	1回目の7日後 15kg
コシヒカリ	22～25本(適正)	3.5	幼穂長15mm 15kg(7月中～下旬)	1回目の7日後 15kg(7月下旬)
	茎数多い・葉色濃い場合は穂肥1回目を減肥する			状態により判断

コシヒカリ幼穂形成期～穂肥1回目までの日数の目安

幼穂長	2mm	5mm	7mm	10mm	15mm
穂肥までの日数	あと6日	あと3日	あと2日	あと1日	0日(すぐ施用)
出穂前日数	23日	20日	19日	18日	17日

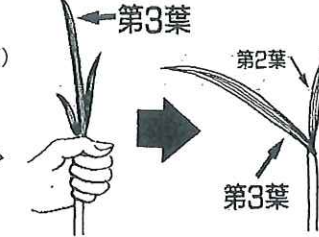
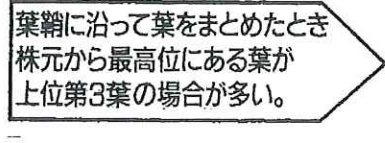
(一括肥料施用時の留意点)
田面を強く乾かしすぎて肥料分の溶出が止まらないよう水管理に注意しましょう。
田植え時に施用量を減らした圃場では、葉色・草丈の状態を見て1回目から2回目の穂肥時期に「新エコ追肥」を追加で5～8kg/10a施用しましょう。

○倒伏対策(コシヒカリ)

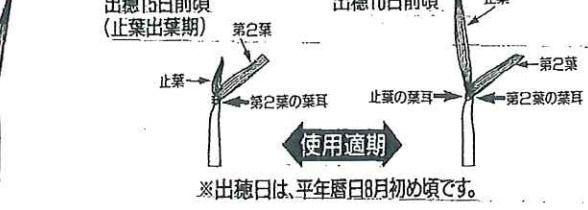
倒伏は、品質の低下、収穫のロスを招きます。「密植・過剰分げつ・窒素過多・徒長苗の植付・ケイ酸分の不足・根腐れ・紋枯病」への対策を施すことで軽減することができますが、倒伏が懸念される場合は、倒伏軽減剤の散布を検討してください。
出穂前20日前後(幼穂長5mmくらいの時期)の上位第3葉の長さが45cm以上ある場合、倒伏の恐れがありますので「ロミカ粒剤」の使用を検討しましょう。

■上位第3葉の見分け方

(出穂前20日前後…平年7月14日頃)



【出穂前の目安】



農薬名	使用量	使用時期
ロミカ粒剤	2～3kg/10a	出穂25～10日前

※5月半ば田植えでは、7月9日頃から24日頃が散布目安となり、早めの散布が効果的です。

○紋枯病の防除について

近年は、高温・多湿の影響で紋枯病の発生が多発しています。紋枯病の菌核は地中で越冬しますので、前年に発生が確認された圃場は必ず防除を行い、新たに発病が発見された場合も、早急に防除を行ってください。過繁茂になると発病や症状の進展が助長され、倒伏の危険性が増します。株元からの発病に注意してご確認ください。



農薬名	使用量	使用時期
リンバー粒剤	3～4kg/10a	収穫30日前まで